

認定調査票の記入のポイント【第8回】

第8回は「第4群 精神・行動障害」についてご案内いたします。問題から正しい選択肢を選んでみましょう。

問題 【4-7 介護に抵抗】

毎日寝る前にトイレに行くように介護者が声をかけるがそのまま寝てしまい、尿失禁が週に1～2回ある。

☐ない ☐ときどきある ☐ある

問題 【4-8 落ち着きなし】

娘がいなかったことを説明しているのにも関わらず、毎日娘を探し回っている。また、夜中であるにも関わらず、廊下をうろうろとする行動がある。

☐ない ☐ときどきある ☐ある

問題 【4-9 一人で出たがる】

現在入所中で、目的もなくウロウロと食堂や他のフロアを動き回り、自分の居室に戻れなくなることが週1回ある。

☐ない ☐ときどきある ☐ある

問題 【4-12 ひどい物忘れ】

一人では歩かないように常に言っているが、忘れて立ち上がり転倒している。毎日何度もあるため、動き出したらすぐに対応しなければならず、手間がかかっている。

☐ない ☐ときどきある ☐ある

回答【4-7 介護に抵抗】 ない

〈解説〉「介護に抵抗する」行動の頻度を評価する項目。単に助言しても従わない場合（言っても従わない場合）は含まない。明らかな拒絶や拒否（例：手を払う、唾を吐く、大声で抵抗する等）があり、介護の手間が発生している場合に選択できる。

回答【4-8 落ち着きなし】 ない

〈解説〉「『家に帰る』等と言って落ち着きがない」行動の頻度を評価する。「家に帰りたい」という意思表示と落ち着きのない状態の両方がある場合のみ該当し、落ち着きがないだけでは含まない。

～特記事項記入のポイント～

★帰宅願望の有無を必ず記載する。

★目的もなく落ち着かない場合は、【3-8徘徊】で評価する。

回答【4-9 一人で出たがる】 ない

〈解説〉「一人で外へ出たがり目が離せない」行動の頻度を評価する項目。環境上の工夫等で施設から外に出ることがない場合、または、歩けない場合等は含まない。実際に外へ出ていくことはないが、介護の手間が発生している場合（目が離せない等）も具体的な状況を特記に記載し選択できる。

回答【4-12 ひどい物忘れ】 ある

〈解説〉物忘れによって周囲の者が何らかの対応を行っているか、周囲の者が何らかの対応をとらなければならないような状況のこと。電話の伝言をし忘れるといったような、単なる物忘れは含まれない。

～特記事項記入のポイント～

★ひどい物忘れによって、周囲の者がとっている対応があれば必ず記載する。

★ひどい物忘れがあっても、周囲の者が対応をとっていない場合や、その必要性がない場合は「ない」を選択する。

★ 特記事項に具体的なエピソードや頻度を記載しましょう。

★ 項目に該当しない状況があっても、介護の手間がかかっている状況があれば記載しましょう。